

**[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施による収量性**

**[要約]**「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施は、定植前に基肥を無施用とすると年内収量が減少する。定植前に窒素成分で10kg/10a施肥すると花房間葉数が増加し、第1次腋花房の収穫開始が遅れる。窒素成分で定植前6kg/10a、マルチ前4kg/10aで分施する方法が妥当である。

**[キーワード]**イチゴ、ゆめのか、地床栽培、基肥、分施

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

**[連絡先]**(代表) 0957-26-3330

**[区分]**野菜

**[分類]**指導

**[作成年度]**2015年度

---

**[背景・ねらい]**

本県では農家所得の向上を目的に、イチゴの主力品種である「さちのか」から、多収で輸送性に優れる「ゆめのか」への転換を図っている。その中で農林技術開発センターでは早期出荷と多収生産を実現するため、暗黒低温処理による早進化技術の開発を進めてきた。これにより「ゆめのか」の導入が進み、「さちのか」より100万円/10a程度、販売額が向上している。

一方で「ゆめのか」は愛知県で育成された品種であり、西南暖地における栽培技術に関する知見がない。今後の更なる普及拡大には品種の特性を活かした安定生産技術の開発が必要であり、本県の環境条件に応じた栽培技術の構築が必要となる。

そこで栽培の基礎となる指標の策定に向け、ここでは地床栽培における「ゆめのか」の定植前基肥とマルチ被覆前基肥の分施割合について検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「ゆめのか」の地床栽培において定植前・マルチ前の基肥を分けて施肥する分施は、定植前に基肥を入れないN-0-10kg/10aで年内収量が少なくなり、N-6-4kg/10a、N-10-0、N-10-5kg/10aでは年内収量、総収量及び1果重は同等となる(図1)。
2. 定植前に窒素を無施用(N-0-10kg/10a)にすると頂花房の収穫開始が遅れ、定植前に10kg/10a(N-10-0、N-10-5kg/10a)施肥すると頂花房と第1次腋花房間葉数が多くなり、第1次腋花房の収穫開始が遅れる傾向となる(表1)。
3. N-0-10kg/10aは年明けの先青果及び先白果の発生率が高くなり、不受精果の発生は低くなる(図2、図3)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. イチゴ「ゆめのか」地床栽培における基肥施肥の参考として活用する。
2. 2013年は第1次腋花房の花芽分化が遅れ、1~2月に収穫の谷間が発生し、2014年は第1次腋花房の花芽分化が順調に進んだ年における試験結果である。
3. 試験圃場は2013年に新たに造成し、深さ50cmで灰色低地土(水田土壌)を客土した圃場であり、本試験は1作目及び2作目にあたる。
4. 2カ年の栽培期間中、施肥量の違いによる生育差は見られなかった。
5. 現地における基肥施肥量は土壌診断結果に基づき調整する。

[具体的データ]

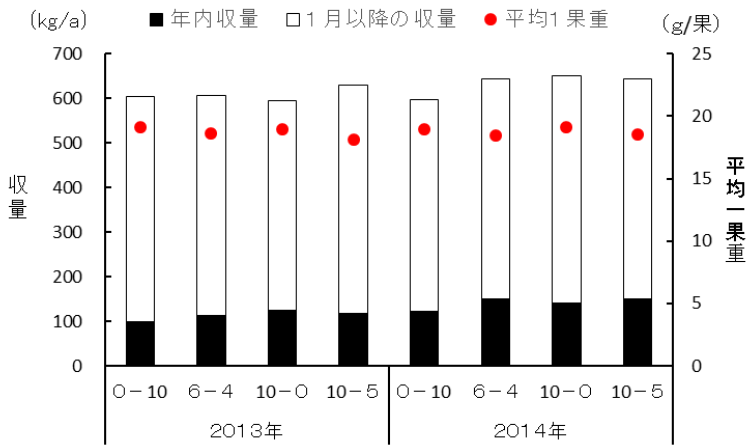


図1 「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施による収量及び平均1果重

<耕種概要>

育苗：高設雨除け育苗、施肥量 N-200mg/株  
 本圃：地床栽培 畝幅 135cm 株間 22cm  
 2条千鳥植え 定植株数 670株/a  
 施肥前 EC：2013年-0.19、2014年-0.13  
 基肥施肥日：2013年、2014年同日施肥  
 定植前9月3日、マルチ前10月17日  
 楽らく莓2号(10-6-2)施用  
 定植日：2013年9月12日、2014年9月10日  
 定植株：暗黒低温処理株  
 追肥：2013年 液肥 N-1.0kg/10a (5回)  
 2014年 液肥 N-1.2kg/10a (6回)  
 収穫終了日：2014年5月14日  
 2015年5月15日

表1 「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施による花房収穫開始日及び花房間葉数

|       | 分施量(N-kg/10a)<br>(定植前-マルチ前) | 頂花房<br>収穫開始日 | 頂~第1次<br>腋花房間葉数 | 第1次腋花房<br>収穫開始日 |
|-------|-----------------------------|--------------|-----------------|-----------------|
| 2013年 | 0-10                        | 11/28±3      | 4.6 b           | 2/27±4          |
|       | 6-4                         | 11/19±2      | 5.6 a           | 3/7 ±4          |
|       | 10-0                        | 11/19±3      | 6.0 a           | 3/11±4          |
|       | 10-5                        | 11/18±1      | 6.1 a           | 3/10±3          |
| 2014年 | 0-10                        | 11/22±5      | 4.4 a           | 2/3 ±7          |
|       | 6-4                         | 11/18±1      | 4.9 a           | 2/2 ±5          |
|       | 10-0                        | 11/21±3      | 5.0 a           | 2/7 ±4          |
|       | 10-5                        | 11/18±1      | 4.8 a           | 2/4 ±6          |

※Tukey 法により同年、同列の異なる英文字間に5%水準で有意差あり、±は95%信頼区間の幅

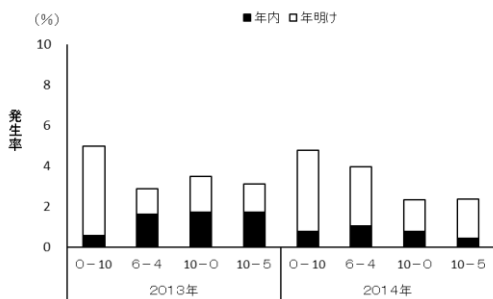


図2 「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施による先青果+先白果の発生率

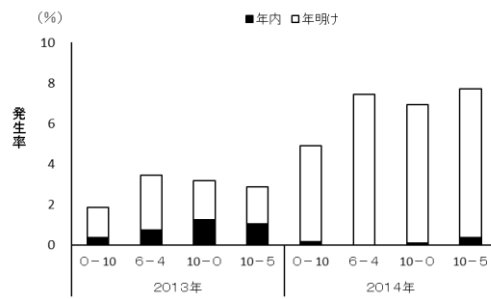


図3 「ゆめのか」の地床栽培における基肥の分施による不受精果の発生率

[その他]

研究課題名：イチゴ次期有望品種「ゆめのか」の安定生産技術の確立  
 予算区分：県単  
 研究期間：2013～2015年度  
 研究担当者：前田 衡